

予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：農山村振興費

事業名 都市農村交流推進事業費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農村振興課 農村企画係 電話番号：058-272-1111(内4176)

E-mail：c11427@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 6,500 千円 (前年度予算額：6,500 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	6,500	3,250	0	0	0	0	0	0	3,250
要求額	6,500	3,250	0	0	0	0	0	0	3,250
決定額	6,500	3,250	0	0	0	0	0	0	3,250

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

新型コロナウイルスの影響で、都市住民のライフスタイルの変化により田舎暮らしへの関心の高まりや、農村での定住志向などの「田園回帰」の動きなど、日本の農業や農村への魅力が再認識されており、岐阜県の農村地域の持つ多様な地域資源を活かした都市農村交流（グリーンツーリズム）を推進していく必要がある。

また、農山漁村での農家民宿・古民家での宿泊や農林漁業体験により、その土地の魅力を味わってもらう農山漁村滞在型旅行である「農泊」ビジネスが農山漁村の活性化及び所得向上につながるとして注目されている。

そこで、現場のニーズにより迅速かつ的確な支援を行うために、農泊やグリーンツーリズムを推進する協議会である、「ぎふの田舎へいこう！」推進協議会の活動に対し支援を行う。

(2) 事業内容

岐阜県における農泊やグリーンツーリズムを中心とした都市農村交流を推進するために設立された「ぎふの田舎へいこう！」推進協議会の活動を支援する。

<「ぎふの田舎へいこう！」推進協議会の主な活動>

- ・都市農村交流の情報発信
- ・都市農村交流に係る人材育成や連携強化など受入体制の整備
- ・移住・定住部局や観光部局との連携やインバウンド対策への対応
- ・農泊相談窓口の設置
- ・地域の農業者等と連携する農村宿泊施設への支援

(3) 県負担・補助率の考え方

補助率 定額：6,500千円／年

県内全域を対象とした活動を支援するため、県負担とする。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	6,500	都市農村交流推進組織運営費
合計	6,500	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「清流の国ぎふ」創生総合戦略、ぎふ農業・農村基本計画

(3) 後年度の財政負担

ぎふ農業・農村基本計画の計画期間であるR7まで実施する。

県単独補助金事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	都市農村交流推進事業費補助金
補助事業者(団体)	「ぎふの田舎へいこう！」推進協議会 (理由) 県下全域でグリーンツーリズムの推進に取り組む唯一の団体であるため
補助事業の概要	(目的) 岐阜県内の農村地域における都市農村交流を促進し、都市住民等の体験者や岐阜県への移住者、新規就農者の増加を図る。 (内容) 県内全域を対象とした都市農村交流活動推進に係る経費の助成
補助率・補助単価等	定額・定率・その他 (内容) 10/10: 上限6,500千円 (理由) 県施策の推進を図るため、必要相当額を助成する
補助効果	・岐阜県における農林漁業体験者数の増加 ・岐阜県への移住者、農村関係人口の増加
終期の設定	令和7年度 (理由) ぎふ農業・農村基本計画において令和7年度末までの目標を設定

(事業目標)

<p>・終期までに何をどのような状態にしたいのか</p> <p>岐阜県における農林漁業体験を中心とした都市農村交流体験者や移住者などが増加することにより、県内農村地域が活性化する。</p>
--

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前	R3年度	R4年度	R5年度	終期目標	
	R2年度	実績	目標	目標	(R7)	達成率
農林漁業体験者数 (ぎふ農業・農村基本計画)	100千人	159千人	270千人	280千人	300千人	53.0%

補助金交付実績 (単位: 千円)	R元年度	R2年度	R3年度
	5,739	5,848	5,896

(これまでの取組内容と成果)

令和2年度	「ぎふの田舎へいこう！」推進協議会への活動支援により、岐阜県のグリーンツーリズムの情報発信、研修会、農泊相談窓口設置等による受入体制の整備が図られた。グリーンツーリズムネットワーク大会がオンラインとなるなど、会員の交流・情報交換がなかなか図れなかった。
	指標① 目標：300千人 実績：100千人 達成率：33.3%
令和3年度	「ぎふの田舎へいこう！」推進協議会への活動支援により、岐阜県のグリーンツーリズムの情報発信、研修会、農泊相談窓口設置等による受入体制の整備が図られた。グリーンツーリズムネットワーク大会が2年ぶりに対面で開催されたが、縮小開催となり会員の交流・情報交換はまだ十分に図られていない。
	指標① 目標：300千人 実績：159千人 達成率：53.0%
令和4年度	令和6年度当初予算にて追加
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____%

(事業の評価)

<p>・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</p>	
(評価) 3	<p>・新型コロナウイルスの影響により、地方分散、田園回帰の流れが加速している中、都市農村交流の更なる推進が求められており必要性は増している。</p>
<p>・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2：期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成) 1：期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50~100%) 0：ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満)</p>	
(評価) 2	<p>グリーンツーリズムの推進を民間団体と連携することにより、現場のニーズに合った支援が実施されている。</p>
<p>・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</p>	
(評価) 1	<p>民間団体と連携してグリーンツーリズム推進の取組みを効率的に実施している。</p>

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項 ぎふグリーンツーリズムの情報発信や、観光、移住定住施策との連携の強化が必要。また、農泊ビジネスへの対応が求められている。</p>

(次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 地方分散、田園回帰の大きな流れをつかむためにも継続すべき。県内のグリーンツーリズムのとりまとめ役として重要な役割を果たしてもらう。</p>
